



JR八尾駅 徒歩5分  
TEL 072-991-3398  
URL http://www.tamagobl.com/

### 健康講座で、知識を身に付け

## 元気で、長生きしませんか?

# 健康体を生かす医療

## たまご理論で病気のしくみを考える

たまごビル院長 石垣 邦彦

河内新聞掲載分バックナンバーができました。現在の医学を変革する新しい発想です。バックナンバー、また今後「健康体」を生かす医療掲載紙を購読ご希望の方は、河内新聞社 ☎ 072-991-0539、FAX072-992-8030 に申し込みたい。

### 2006 現在の日本医療再生への提言

1月号 現在の日本では慢性疾患の患者主体の予防が必要とされている

- \*疾病構造の変化により慢性疾患の予防とケアが医者の中心に
- \*EDM根拠にもとづく医療の最も信頼性の高いレベル1の根拠を「ランダム化比較試験」=疫学的な統計データに何故おかないはならないのか

2月号 「健康体」を理解すれば慢性疾患に対し患者主体の予防ができ医師の専門性を活かせる!

- \*なぜ、現在の医療は慢性疾患を予防できないのか?
- \*WHOの健康の定義では問題解決にならない理由
- \*人体が有する適応力と「健康体」という新たな考え

3月号 「健康体」を理解すれば慢性疾患の予防ができ薬害・医療過誤を防げる

- \*「健康体」の意義 「健康体」の3大特徴「健康体」の特徴からの変化
- \*「健康体」と慢性疾患の関係

4月号 肺転移後の前立腺ガンを内臓調整で克服

- \*Nさん(80歳)の症例
- LIH-RH療法・アンチアンドロゲン療法と内臓調整

5月号 「健康体」の3大特徴がガンを防ぐ

- \*同故、末期ガンになるまで人間ドックで分からなかったのか?

6月号 ガン・脳卒中・心筋梗塞は予防できる

- \*Nさんに対するホルモン療法を、なぜ中止する必要があったのか?

7月号 患者と医師の信頼を深める「健康体」の3大特徴

- \*たまご理論による肺転移後の前立腺ガンに対する統合医療を時系列でみる

8月号 腎臓ガンからの肺転移を克服し社会復帰

- \*Yさんの治療経過、何故インターフェロン・抗がん剤を中止できたのか?

9月号 肺ガンの1次予防は内臓の活性化と禁煙

- \*現代医学の「肺ガン」に対する1次予防「たばこ」の問題点
- \*現代医学の「肺ガン」に対する2次予防「検査」の問題点
- \*「肺ガン」と内臓の動きの注目すべき関係について

10月号 肺ガン予防は「健康体」の変化を検査すること

- \*新たな発想に基づく「肺がん検査」への提案

11月号 肺ガン治療の基本は内臓調整

- \*新たな発想にもとづく慢性疾患としての「肺がん」治療の考察
- \*現代医学の「肺がん」に対する治療の問題点

### 2007 人類38億年の宝(健康体)を活かす医療

1月号 生きるとは食べること、食べるとは取り入れ・消化・吸収・排泄

- \*原腸胎入(げんちょうたいにゅう)とは何か?

2月号 生き物は命をつなぐために生きている

- \*命をつなぐために生きるとはどういうことか?

3月号 人の一生は生物として生まれ・生き・死ぬ

- \*人間は食べられて生きている生物
- \*殺されずに生きている生物
- \*自然に適合して生きている生物

4月号 生物としての死は私たちが生かす大切な役割

- \*死の役割とは何か?

5月号 私たちの個人的な「死」も子や孫・社会を活かす大切な役割

- \*がん患者学、花あわした作家・柳原和子さんのことば…
- 『誤解を恐れずに言うならば正しさ、真実以前に間違っていたとしても、温かい手で握りしめながら、私をだまして安らかに死なせてくれたらそれが私にとって多分、かなり多数の患者たちにとって、最も素晴らしい臨床医学であるかもしれない…末期とは、そういう時期なのではないか? 間違っても、万が一治ったとしても私は買った! 聞えれば勝つなどという言葉を吐かないようにしたい!』

6月号 私たちの社会生活は生物として生きていることが基本

- \*死の準備ができていない現代日本人

7月号 食べられる豊かさを私たちはどう活かせばいいか

- \*人間として意識をもち社会生活の中で生きること、生物としての人として生きていることの両者の生き方を同時に考える存在

8月号 貧困を知ることが食べられる「豊かさ」を活かす

- \*ニート・引きこもり原因は何か

9月号 自腹の根本原因は食べられる「豊かさ」にある

- \*食べられる幸せが不幸の始まりとはどういうことか

10月号 食の「ありがたさ」を忘れ、自ら病をつくる日本人

- \*生命を食で生きている私たち・人間
- \*先ず胃腸が、それから心臓・脳がきた! それらはどうしてか?

11月号 時代が変化しても生物としての人間は変わらない

- \*現代医学の長所はなにか、短所はなにか、どう活用するか

### 2008 私たち一人一人に備わる(健康体)を活かす医療

1月号 人は楽しむために生まれてきた

- \*健康体と慢性疾患の関係—医学における新たな発想

2月号 薬に頼らず慢性疾患を予防する・治療する

- \*慢性疾患に信頼できる予防基準がないため薬害がおこる
- \*アメリカでは薬の副作用が死亡原因の第4位!
- \*医師にも患者にも不安な投薬状況

3月号 多種類の慢性疾患をたまご理論で同時解決

- \*健康体と慢性疾患の図を見ると同時解決の意味が分かる

4月号 慢性疾患の診断と治療にはその方の人生を知る必要がある

- \*Nさんの人生とNBM(一人ひとりの語るれる物語とその方との対話を通じて、個別に、一人ひとりの病気を癒す医療)

5月号 老人の死に至る肺炎は予防できる

- \*Nさん(88歳)の肺炎の原因は心臓にある
- \*抗生物質なしでNさん(88歳)の肺炎を治す
- \*Nさん(88歳)の肺炎を予防する

6月号 高齢者の肺炎予防のポイントとは 静脈還流にある

- \*静脈還流の「しくみ」を応用して心臓の動きを助ける

7月号 高齢者の肺炎死の原因は体全体の機能低下状態にあり強力な抗生物質も効果が少ない

- \*高齢者の肺炎が難化する理由(東京都老人医療センター呼吸器科部長木田厚徳DR)
- \*難化する理由を内臓調整で解決する「しくみ」

8月号 高齢者の体全体の機能を低下させ薬の副作用! これをどう解決するか?

- \*加齢と老むこともなう体全体の機能低下を治す薬も手術もない

9月号 人体の正常構造と機能=「人体のしくみ」を最大限に活かす肺炎を予防する!

- \*医学は体全体が表す「人体のしくみ」を生かす必要がある
- \*「食べられる」ことが体全体の機能を高める
- \*内臓調整で「食べられる」状態をつくる

10月号 新しい発想「上腹部の柔軟性」と大陸移動説

- \*大陸移動の「しくみ」と人体を動かす「しくみ」

11月号 高齢者のくすりの副作用を予防する

- \*高齢者のくすりの副作用に抜本的な問題点を提案する
- \*その問題点を根本的に改革する

### 2009 自然の一部である「人体のしくみ」健康体を活かす医療

1月号 自然の「しくみ」を生かした予防に勝る治療なし!

- \*現代医学の薬物らしさをどう生かすか?
- \*耕さない米作り、山を活用した酪農

2月号 慢性疾患予防の要は腸の「しくみ」を生かすこと

- \*今日の世界的大不況は人類にとって一つの好機!
- \*土地本来の木を植える植林

【腰痛を予防する】

3月号 ①現代医学の最先端の現状と問題点

- \*「腰痛」の原因の95%は不明である
- \*心臓的ストレスがどうして、腰に加わる力を増加させるのか?

4月号 ②胃腸の働きと「腰痛」の関係を探る!

- \*胃カメラで異常なしとはどういうことか?
- \*腹いっぱい食べたとき腰はどうなるか

5月号 ③胃腸の弱りで上腹部が固くなり「腰痛」が発生する

- \*「上腹部の柔軟性」と体の各部分にかかる力との関係を発見
- \*食べ過ぎてお腹の痛みはないのか? いいことか?

6月号 ④上腹部を固くする「生活上の原因」と「腰痛」の関係を探る

- \*「食習慣」—「矢状感覚」—「腰痛」の関係
- \*Tさん44歳の疑問「なんでもたっしゅろ」を解決する。

7月号 ⑤「腰痛」から、現代医学が抱える問題点の根本原因を探る

- \*フカト・近代医学=現代医学=複雑な関係を断ち切った考え方

8月号 ⑥なぜ高齢者には「腰痛」と相前後して多種類の症状が体に現れるのか?

- \*体全体の動きが低下して腰痛がおこる

9月号 ⑦「上腹部の柔軟性」の出現とともに、「腰が伸びる・膝が伸びる

- \*老若男女に人体の基本の「しくみ」は共通

10月号 ⑧「上腹部の柔軟性」と食べること・胃腸の動き・体の中心「腰痛」との関係を探る

- \*体の中心はどこにあるか
- \*体の中心にかかる力と「上腹部の柔軟性」の関係

11月号 ⑨「上腹部の柔軟性」をつくれば「腰痛」の予防ができる

- \*具体的な患者主体の根本的な予防法を提案する

11月5日号 インフルエンザは、なぜ?

- \*ワクチン・タミフル・解熱剤は有効か
- \*根本的な予防法を提案

### 2010 体全体を表す「人体のしくみ」健康体を活かす医療

1月号 ガンは私たちの仲間だ!

- \*新たな発想でガンの予防・治療・人生を考える
- \*ガンの全体像を捉えることはできないのですか?
- \*ガンとは一体何か?!
- \*新たな視点を開発する

2月号 「生きている」とは「いのち」をつないでいること

- \*ガン専門医の疑問・悩み・提案
- \*近代科学・現代医学の矛盾
- \*生きている条件が生きている目的

3月号 「生きている」とは食べ物「からだ」の中心に取り込み—消化—吸収—排泄すること

- \*「便秘と消化管癌生」の起原
- \*食べ物とは上下から下へ?

4月号 「生きている」とは祖先が同じ仲間「いのち」をいただいていること

- \*背中がつぶれるのは「便秘」の原因は同じ
- \*「からだ」の「しくみ」に基づいた「食べ方」について

5月号 「つわり」も「肺炎」も元にある原因は消化管の筋肉の「動き」の弱り

- \*「生きている」共通する原理
- \*総合的な免疫力とは?

6月号 消化管の筋肉の「動き」の弱りが慢性疾患の主な原因

- \*「からだ」全体の「はたらき」が弱ると病気になる
- \*クサリ副作動で消化管の筋肉の「動き」が弱ると、「からだ」全体の「はたらき」が低下し免疫力が落ちる

7月号 新たな発想 なぜガンは私たちの仲間か!

- \*「慢性疾患」には「原因」と「経過」と「結果」があり、ガンも慢性疾患である

8月号 食と血液と呼吸の三つの流れを転換する

- \*果たして「心・心臓・肺」が三大重要臓器か!
- \*死に至る条件から、生きるための条件へ

9月号 血液の循環は消化管(胃腸)が支配する ①

- \*静脈還流を促す静脈ポンプ
- \*静脈還流量・呼吸・横隔膜・胸圧・腹圧・静脈弁との相関関係

10月号 血液の循環は消化管(胃腸)が支配する ②

- \*空腹時の胃・小腸の収縮運動=筋肉の動きとその特徴

11月号 血液の循環は消化管(胃腸)が支配する ③

- \*新たな発見 「消化管ポンプ」の「しくみ」

### 2011 生命と地球の共進化により生まれた健康体を生かす医療

1月号

- I 知らなかった「i P S細胞」の驚異
- II i P S細胞がおこす医療革命
- III i P S細胞が生命を変える
- IV 人と動物の混合=キメラはどこまで
- V 科学技術の長所と短所
- VI i P S細胞が映す生命のなぜ
- VII 人間はどこへ行くのか

2月号

- I 「古い」と「死」は防げない
- II 「人体」はすばらしい「いきもの」
- III 「人体」は「いきもの」であって、単純なロボットではない
- IV 身近な例、高血圧で考える
- V クスリで本当に病気が治るのか
- VI お迎えがきつてあるんだなと分かってから、本当に自分と向き合える
- VII R O B治療で高齢者に「生きている」ことを楽しんでいただく

3月号

- I 患者主体の慢性疾患の予防方法の確立とその普及が必要
- II 慢性疾患予防の世界基準づくりには解決すべき2点
- III 「死」は「生命」と「地球」が共に進化することによって生まれたすばらしい「しくみ」
- IV 「子」は「授かりもの」、「死」は「お迎え」を再認識
- V 現在の医学（現代医学・東洋医学・その他の医学）の一番の問題点
- VI 医師が悩む—現代医学の構造的欠陥

4月号

- I 地球の驚くべき変動
- II 地球環境の変動に対応して「からだ」をつくり変える
- III 私たちの母なる細胞に、異物である細菌を取り入れ、「いのち」を守る
- IV 子孫が「生き残る」ための私たちの「死」

5月号

- I 私たちはなんと恵まれた生活をしてきたのか
- II 必ず起こる「死」の準備はできていますか
- III 人間中心の考え方が「問題」の根拠にある
- IV 「死」が「生」を生かす
- V 人間には生きぬく「しくみ」がある

6月号 人間も「動物」。その「死」を中心にして「生」を観る

7月号 一人ひとりの真の「生きがい」をつくること、日本を再生する

8月号 『生きもの』である人間が、本当にいきいきと生きられる原則

9月号 私たち一人ひとりの「からだ」にぎざみこまれている進化の「しくみ」を生かす

10月号 安心と生きがいは『いのちをつなぐ』ところにある

11月号 『からだのしくみにおまかせする』という新たな発想

### 2012 今後のあるべき医療(健康体)を活かす医療

1月号

- I そもそも人間は、特別な「生きている」のでしょうか
- II そもそも「飢え」と「死」が人間を生かすこととは、どういうことでしょうか
- III 近代科学・現代医学に落とし穴があるとは、どういうことでしょうか
- IV 現在の日本には、慢性疾患の「患者主体の予防」が必要なのは、どうしてでしょうか
- V 医学的「基準値」や「ガイドライン」はどつてごころも、あいまいなののでしょうか
- VI どうして「健康なからだ」の、しかも「部分」ではなく「全体」をあらゆる「指標」が必要なののでしょうか
- VII 現代医学は高齢者の「死」を防ぐことが目的ではないのでしょうか

2月号

- I 慢性疾患に対する医療の方法にひそむ1つ目の構造的課題
- II 慢性疾患に対する医療の方法にひそむ2つ目の構造的課題
- III 慢性疾患に対する医療の方法にひそむ3つ目の構造的課題
- IV 現代医学の慢性疾患の予防・治療・ケアのものが解決に向かう5つの方向

3月号

- I 生(なま)の人間の「こころ」と「からだ」の変化
- II 生(なま)の人間の「こころ」と「からだ」が変化した結果
- III 「上腹部の柔軟性」と「呼吸・循環・人体力学・自律神経・消化管の運動機能」との関係
- IV 「上腹部の柔軟性」と「生きる力」と「総合的な免疫力」と「自然の治癒力」「現代医学」に新たなページを開く「上腹部の柔軟性」

4月号

- I 「上腹部の柔軟性」と「自然の治癒力」と「生きる力が生きぬく原則」
- II 「上腹部の柔軟性」という指標の特徴
- III 「上腹部の柔軟性」という指標を測定する装置とシステムについて

5月号

- I 「頭寒足熱・冷へのほせ」と「上腹部の柔軟性」
- II 「いのち」をつなぐ「はたらき」と「からだ」の関係
- III 「生命」とは
- IV 球形の中でおこる「対流」
- V 「消化管の運動機能」と「体液の循環と対流」

6月号

- I 「消化管ポンプ」を構成する「しくみ」
- II 高齢者の「食べ過ぎ」の害をひもどく
- III 「からだ」の「しくみ」が喜ぶように生きる

7月号

- I 血液は「体液」の一部
- II 「からだ」の「はたらき」のとは、「体液」の移動による「取り入れ・排泄」「からだ」の「かたち」のものは「球形」
- III 「取り入れ・排泄」をおこなうために、「体液」の移動が特殊化されたものが「呼吸・循環・人体力学・自律神経・消化管の運動機能」

8月号

- I 「体液」の移動による「取り入れ・排泄」から人体の正常構造と機能が生まれた
- II 静脈血の特性
- III 「横隔膜」・「肺」・「心臓」と「胸腔内圧」「腹腔内圧」と呼吸と静脈弁・「静脈還流」・全身の循環
- IV 「上腹部の柔軟性」と「横隔膜」の上下動と「呼吸・循環・人体力学・自律神経・消化管の運動機能」

9月号

- I 「横隔膜」の上下動による胸腔(頭蓋腔・胸腔・腹腔)と上肢・下肢での圧力差が、「呼吸・循環・人体力学・自律神経・内臓の動き」の要
- II いわゆる、脳卒中体質について
- III 脳卒中体質を明らかにする
- IV 脳卒中体質の特徴的現象をまとめる

10月号

- I 脳卒中体質の特徴的現象を「上腹部の柔軟性」から再確認する
- II 脳卒中の一番大きな原因である高血圧、その高血圧治療ガイドライン(2009)の生活上の修正項目
- III 高血圧治療ガイドラインにない高血圧を起こす原因
- \*「こころ」を込めて「呼吸」を深く・長くすると、「呼吸と循環」は整う

11月号

- I 「脳卒中体質の特徴的現象」と「上腹部の柔軟性」の関係に気づく
- II 安倍先生が「高血圧」なられた生活習慣を、「健康体の特徴」である「上腹部の柔軟性」の視点から解明する
- \*「上腹部の柔軟性」から「心臓」と「膝」のつながりを診る